

4046 ママチャリ日本縦断の旅：新田神社と原子力発電所

川内市、新田神社、ご縁のあった石清水八幡宮との関係が深い。
川内川の河口にある原子力発電所、どんな立地の中にあるのか、知りたかった。
風光明媚、自然がいっぱいの、野鳥と水田の高江三千国^{ひろがた}広潟。





野鳥と水田の高江三千石広瀨

高江広瀨は、かつて、腰曲「鳥道舟」に「日暮の暈と申すは、前には大河流れ、末は潮水に映けりと伝えり——」と唄われている如く現在の峰山校区公民館辺りまで川舟が往来する、周廻約四キロばかりの遡入した広大な沼沢であったが、貞享四年（一六八七）小野仙石衛門による長崎湾防衛増進で干拓され、三百町歩の新田が生まれた（小野殿新田とも言った）

しがし、「親がやるとも 高江はいやよ 高江三千石 火の地獄」

「高江田圃の 泥米食よが 生れ在所の 粟がよが」

と俗謡に唄われた如く、高江の百姓は水害に悩まされ「高江の三作二種」と言われ「せでけ」（反に十畝）は三年に一回、農儀のし通してあった。その後三百年ががって、八間川・新川・山の手川、須賀段・倉谷・古屋敷の池、四ヶ所の排水機場等の治水・灌漑施設が完備され、耕地整理（大正十五年～昭和二年）も行われ、川内地方有数の米作地帯になった。

葦茂り、葦横に張り巡らされた用水路には小魚が多く、野鳥の宝庫であり、近年は「カマフトワシ」が飛来し、全国各地から探鳥家が訪れ、また、外国のバードウォッチャーを案内してきた東京の「日本野鳥の会」の人の話では、貴重種の「やませみ」も見られるという。

絶滅危惧種の「メダカ」や、周辺の小川には「ホタル」も多数生息し、自然がいっぱいである。